

ムカムカ ドッカーン！

パイ インターナショナル 5歳から

ミレイユ・ダランセ 作 ふしみみさを 訳

【あらすじ】

一日嫌なことがあった男の子ロベールが
不機嫌に帰ってきました。

ご飯もきこらないロベールはパパにも叱られ
自分の部屋に行きました。すると…
おなかの底のほうからぐんぐん…ぐんぐん…
大きなかたまりがのぼってきます。

そして一気に口からグワワワワオオオオ！

と現れました。かたまりはロベールの部屋で
暴れます。枕、テーブル、ランプが飛び、棚や本をひっくり返して。
かたまりがおもちゃばこに近づいた時「それはやめて」とロベールが慌て
ました。壊れたおもちゃをみて、ロベールはかたまりに言いました。

「なんでそんなにやりたいほうだいしてるのさ。あっちいけ！」

ロベールはかたまりがめちやくちやにした物を丁寧にひろっていると、小さ
くなったかたまりを見つけました…



【めもめも】

かたまりは男の子の不機嫌な気持ちです。不機嫌な気持ちが勝手に
いろいろなものに当たり散らして大暴れしました。自分の起こった気持ち
を人がやっていることとしてみることで、「だめなこと」がよくわかるお話
です。自他の違いに気づき、「自分」を意識する5歳ごろには、この絵
本の意味がよくわかるかな。

こどもになっちゃえ！

金の星社 ぜひ大人に…特にパパママに読んでもらいたい

こどもの視点ラボ 作 石田文子 文 沓掛光宏 絵

【あらすじ】

いっちゃんはおもった
ママはぷりぷり おこりんぼ

はるちゃんはおもった
パパは とほほな わからずや

どうしてこんなことをするの？
なんでなきやまないの？

わからないなら こどもになっちゃえー

あたまがおもい…コップや牛乳パックは大きすぎる。

「暑い」っていつてるのになんでわかってくれないの？

子どもだって大変なんだ…



【めもめも】

「どうしてこぼすの？」「おっぱい？おむつ？…なんで泣き止んでくれないの??」そんな大人の思いのもう一方の視点。

子どもは親の一部っぽく考えがちですが、どんなに小さくても、話せなくても気持ちはあるし、できない理由がある。

大人だってわかっているつもりだったけれど、忙しい日々についイライラ。そんな時に読んで笑って気持ちを切り替えて…パパやママ向けの絵本です。

ぼく うそついちゃった

佑学社 1980年

マージョリー・ワインマン・チャーマット 作 大庭みな子 訳

【あらすじ】

「ぼく、うそついちゃった。でっかいうそを」
本当はクッキーを食べたのに、
お父さんに聞かれて「たべてない」って
うそをついちゃった。
うそはもじかもじやあたまのはなつたれ、
ふとちよのきたならしいやつ。
おおばかで自分の名前もかけないから
「うそ」ともかけないだろ。
たくさん悪口をいってみるけれど、ぜんぜん僕から離れない。
おなかの上ののってきた…いたいよ。こうさんするよ。
お父さんとお母さんに言いました。
「うそをついちゃった。ほんとはクッキーをたべちゃった」と。
すると、ふとちよのきたならしいやつほどこかにいっちゃった…



【めもめも】

4歳ごろになるとわかっているのに「うそ」をつくことがある。親を悩ませる嘘問題。実は嘘をついた子ども自身も「どうしようかなあ」って思っている。いくつかある「うそ」の絵本の中でもずいぶん古い絵本。子どもの心の葛藤がみえてくる。
「でぶ はなつたれ きたならしいやつ」…「うそ」化け物の表現が今の時代ではアウトかな…。それも絵本の世界のおもしろさかな。

ねえ、きいてみて！ みんな、それぞれちがうから

汐文社 小学校低学年から

ソニア・ソトマイヨール文 ラファエル・ロパス絵 すぎもとえみ訳

【あらすじ】

小児糖尿病という病気をもつ作者のお話。
みんなで庭をつくろうとしているソニア。
花や木はにおいや育ち方、葉っぱ、お日さま
をたくさん必要な植物やそうでないもの。
みんなそれぞれ。人間の子どもも一人ひとり
違う。見ただけで分かることもあれば、
なかなか気づいてもらえないこともある。
何か違うなって思ったら、「ねえ、きいてみて！」
注射が必要な病気や吸入器が必要な喘息の子。車いすやつえが必要な子や耳が聞こえない子もいる。見た目ではわからないけれど読んだり書いたり苦手な学習障害や自閉症、ADHD…も。
でもね、みんな違うから世界中は楽しくって面白い。互いに助け合うことで世界は楽しく豊かになっていく…。



【めもめも】

みんな一人ひとり違う。特に、病気や障害への理解は子どもにとって難しい。でも実は、思い込みや自分の中の常識が「普通は」と考えてしまう大人のほうが、理解や受容が苦手なところがある。
子どもは、わかりやすく話をしておげると「その子」として理解する力を持っている。子どもに対してだけでなく、親としても我が子理解の大切さに気づかされる1冊。

ルルちゃんのくつした

福音館書店 1歳から

せなけいこ 作／絵

【あらすじ】

ルルちゃんのくつした、どこへいったかな？
ルルちゃんがお昼寝の時に脱いだままの
くつしたをなくしました。

先生に聞いてもわからない、
みんなに聞いてもわからない。

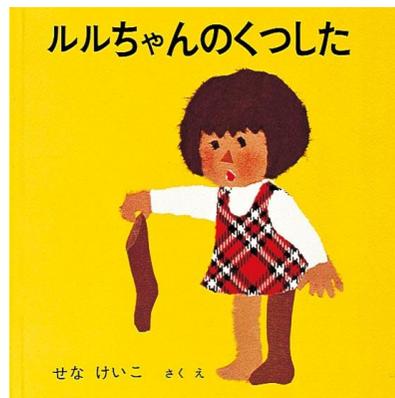
いったいどこへいったかな？

うさぎが耳につけたかな？

わんこが首に巻いたかな？

それともぞうさんがマスクにしているかな？

きっとどこかで泣いている？
くつしたさん、なくしてしまってください。



【めもめも】

自分でできることが増えてくるけれど、完璧にできるわけではないのが
子ども。子育て中のあるあるです。

この絵本も歌で読み聞かせができ、子どもたちに人気の絵本。

片付け忘れてモノがなくなってしまうときに、歌いながら一緒に探したり、
「ごめんなさい」とモノを大切にしたりする気持ちを一緒に表すのも
よい。

まるのこ

福音館書店 0歳から 【こどものとも012】

殿内真帆 作

【あらすじ】

「まるのこ」でできたころんころん」

とやってきたのは、赤、青、黄の
色鮮やかなまるのこたち。

まるのこたちは、こがったり、

跳ねたり、輪をつくったり、

飛んでいたり。

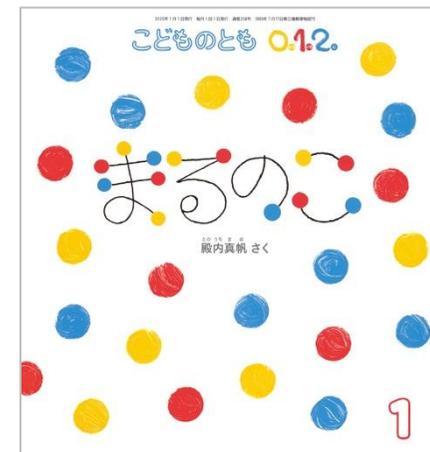
いろんな動きがとても楽しそう。

リズムカルな言葉とともに、

まるのこたちが動いている。

最後はみんなで「ぎゅっ」

そして、飛び出しちゃった。ぱんぱかぱーん。



【めもめも】

赤ちゃんに最初に伝える形は、やっぱり「まる」

「まんまるだねー」って目に触れるものの形を伝えることがたくさんある。

赤、青、黄の三色も、赤ちゃんにもはっきり見える。

音に合わせてからだや絵本を揺らしながら楽しんだり、「ぎゅっ」抱きし
めてあげてもうれしい。

もじゃもじゃ

福音館書店 1歳から

せなけいこ 作/絵

【あらすじ】

もじゃもじゃ頭のルルちゃん
どうするの？

もじゃもじゃなのは、庭の木、犬のころ、
ほどけた毛糸、そしてルルちゃんの頭。

さあ、庭の木は

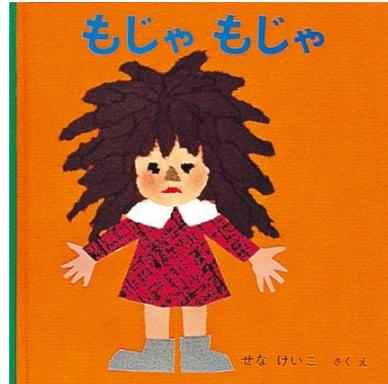
「うえきやさんが ちよき ちよき」、

犬のころも「ちよき ちよき」、

毛糸は「まきましよう」、

ルルちゃんのもじゃもじゃ頭もハサミで「ちよき ちよき」して、すっかりきれいになりました。

かがみにうつつた きれいなこ だあれ？



【めもめも】

もじゃもじゃ…ってどんな感じ？

1ページごとに1フレーズで1歳前後の子にもわかりやすい。

髪の毛をカットする時に読んであげるのもよいかも。

これも定番。人気の絵本です。

にんじん

福音館書店 1歳から

せなけいこ 作/絵

【あらすじ】

にんじんのすきなこだあれ？

「にんじんの すきなこ だあれ」

というよびかけに、

「うまさんは にんじんが すき

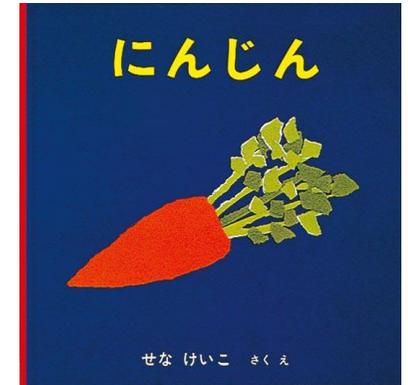
だいすき ああ おいしい」と

うまがこたえます。

きりんさんも、おさるさんも、ぶたさんも、

にんじんを美味しそうに食べます。小さいにんじんはねずみさん、大きいにんじんはぞうさんがいただきます。では、にんじんが1番すきなのはだあれ？

にんじんすきな うさぎさんみたいなげんきなこ だあれ？？



【めもめも】

子どもと言えばニンジン嫌い…そんなことからできた絵本かな？？

子ども達の大好きな動物が「にんじん すきよ だいすき」

「むしゃむしゃむしゃ」と一緒に食べたり、登場する動物の真似をしたりして、にんじん好きになりきって楽しみましょ。

この絵本も1歳前後の子ども達は大喜びで大好きです。

ねないこだれだ

福音館書店 1歳から

せなけいこ 作/絵

【あらすじ】

夜の9時です。

「とけいがかかりますボンボン」

こんな時間におきているのはだれだ？

ふくろう、くろねこ、どろぼう……。

いえいえ、夜中はおばけの時間。

あれ？まだ寝ていない子が。

そんな子は、おばけになって

とんでいけ！

寝ない子はおばけの世界に連れていかれるよ、

おばけになって、とんでいけ～



【めもめも】

保育園でも人気の絵本。おばけだけれど、怖くない。

寝ない子はおばけになってとんでいけ～って、強烈なお話ですが、決して怖がらせるお話ではありません。

お話を歌にして読み聞かせられ、子どもたちは大好き。

0歳児クラスの時に、よく歌いました。子どもたちはからだを揺らしながら読み聞かせを楽しんでくれます。

いやだいやだ

福音館書店 1歳から

せなけいこ 作/絵

【あらすじ】

ルルちゃんはなんにでもすぐに

「いやだいやだ」といいます。

あんまり「いやだいやだ」と

言っていたら……。

お母さんも「いやだ」といって

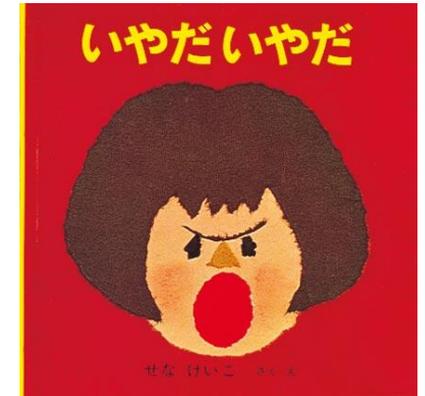
抱っこしてくれなくなりました。

おやつもお日さまも、

保育園には歩いていく靴も、

大事なくまのぬいぐるみも、みんなが「いやだ」といいます。みんな

に「いやだ」といわれて、ルルちゃんは泣きべそをかいてしまいます。



【めもめも】

「いやいや期」の本。大変な時期だけれど、必要な成長でもある。絵本でも読んで、親子で楽しむしかない…のかも。

絵本を読めば自ずるものではないけれど、全力で「いやだ」ということばを楽しんで、大人も「まいった気持ち」を吐き出しちゃうこと必要かも。ママだって「いやだ」って言いたいよね。